北海道博物館協会
学芸職員部会
ニュース

No. 94
2020（令和 2）年 12 月 21 日発行

CONTENTS

01　北海道博物館協会学芸職員部会第 44 回研修会(オンライン研修会)の開催
03　『北の学芸員とっておきの《お宝ばなし》』掲載原稿に関するお詫び
04　北のミュージアム紀行 11「特集　新型コロナウィルスと博物館」
05　編集後記

北海道博物館協会学芸職員部会 第 44 回研修会(オンライン研修会）の開催

2020(令和 2)年 9 月 24 日(木)「北海道博物館協会学芸職員部会第 44 回研修会」を開催しました。本研修会は今金町で開催される予定でしたが、新型コロナウィルスの影響を受け、感染防止対策のため Zoom を利用したオンライン研修会となりました（例年同時期に実施される総会は「書面開催」となりました）。

本研修は例年、資料の梱包、資料の処理、教育普及など学芸員部会員の日々の業務に関連する業務のスキル向上を目的に開催されているもので、例年多くの学芸職員が出席し、分野や地域を越えて互いに情報交換を行いながら研鑽をしています。

主　催　北海道博物館協会　　共　催　道南ブロック博物館施設等連絡協議会
主　管　北海道博物館協会学芸職員部会　　後　援　今金町教育委員会

研修 1「資料の適切な保存環境とカビ対策」

講師：降幡順子氏（京都国立博物館保存科学室長）
進行：高橋美鈴（様似町教育委員会学芸員）

学芸員業務の根幹となる「資料管理・保存」「カビ対策」等について基本的な管理方法について研修を受けました。研修では、まずカビを発生させない環境を作るために温湿度計の種類や、それらの校正方法、クリモグラフの書き方といった博物館環境の管理について研修を受けました。

特に、温湿度計のデータを用いて月平均で温湿度をグラフ化したクリモグラフを作成し、自身が所属している館のカビの発生しやすい時期を把握し、日々の管理によってカビを発生させないことの重要性についてご説明いただきました。

その後は、今金町の事例を宮本氏からご説明いただいた後に、シリカゲルや調湿剤の利用方法や既にカビが発生してしまった資料についてエタノールを用いたカビの除去方法などより実践的なカビの対策についての講義がありました。　（文責　様似町教育委員会　高橋美鈴）

研修２・バーチャルエクスカーション
今金町の地形と特産品巡検ツアー

講師：能條　歩氏（北海道教育大学岩見沢校教授）
進行：宮本雅通（今金町教育委員会学芸員）

今金町をフィールドに地形と特産品との関係をさぐる巡検ツアーとし、地質学の専門家に随時質問する形式で行いました。お気付きの方も多いでしょう、正しく「ブラタモリ」の自家製版です。視点として次の３点を設け、地形と地質をど真ん中に据えて解き明かしてみようという試みです。

（１）後志利別川上流域の岩石・鉱物資源と産業との関係
（２）後志利別川上流域の地形と旧石器遺跡との関係
（３）後志利別川中流域の地形と農産物との関係

冒頭、宮本学芸員が町の概要や沿革を紹介した後、１～３の順にポイントとなる場面で都度、能條教授に質問し、解説してもらいました。前職が今金町学芸員でもある能條教授は、必要に応じて描画ソフトを用いて地形の成り立ちなどを丁寧に解説され、Zoom という媒体の利点が感じられました。詳しくは下記の YouTube で公開（会員限定）していますのでご覧ください。

https://youtu.be/COPLIvbFGMU

写真１　ゼオライト採石場での収録のようす

写真２　マンガン鉱山付近での解説のようす

総じて、地形や地質の特徴が町の産業や遺跡（＝過去の人の営み）といかに深く関係しているか、多くの参加者に伝えられたのではないかと思います。反省点としては、進行役と Zoom の画面切り替え作業を宮本一人で担当したため、画面の切り替えに手間取ってしまい、当日参加者にはご迷惑をおかけしました。複数人態勢で対応し、スムーズに切り替えるようにすればより良かったです。なお、オンライン形式で実施することが７月に決まった時点で事前収録が必要と判断し、９月２日～4 日の３日間かけ現地での事前収録を行いました。その収録と編集作業には能條教授と北海道教育大学岩見沢校の学生４名の全面的な協力をいただいたことを紹介しておきます。
（文責　今金町教育委員会　宮本雅通）

『北の学芸員とっておきの《お宝ばなし》』掲載原稿に関するお詫び

『北の学芸員とっておきの《お宝ばなし》』に掲載した
高橋史弥さん名義の原稿に関するお詫び

平成 28 年（2016 年）11 月に発刊した『北の学芸員とっておきの《お宝ばなし》』は、平成 25 年（2013 年）3 月～同 26 年（2014 年）3 月にかけて北海道博物館協会学芸職員部会ホームページで連載した『北海道で残したいモノ、伝えたいモノ』を再編集して、出版社の㈲寿郎社から出版した書籍です。

本書には、元三笠市立博物館学芸員の高橋史弥さん名義の「開拓地でお葬式はどう行なわれたか？」が掲載されています。これは、学芸職員部会ホームページに高橋さんが投稿した文章を使用するにあたって、ご本人の確認を経ないまま、再編集の上掲載してしまったものです。当時、高橋さんはすでに三笠市を離れており、編集委員が当時の状況から連絡がとれないものと判断し、全編掲載を優先して高橋さんの著者校正ができないまま掲載してしまいました。

編集した文章は、高橋さんご自身の意思に反するものであり、本書に掲載された文章は、出版社校正が入ったもので、本人の意図した原稿ではないことをここに記します。高橋さんの元原稿につきましては、現在も学芸職員部会ホームページに、「北海道の移住文化からみる葬送儀礼の構築」として公開しておりますので、こちらをご覧いただければ幸いです。なお当然のことではありますが、その他のすべての執筆者の皆様には、3 回にわたる校正を依頼し、ご確認いただいていることを念のため記載させていただきます。

当時の編集委員一同、高橋史弥さんに衷心よりお詫び申し上げますとともに、すべての執筆者の皆様、さらには本書の発刊にご協力、ご尽力をいただきました多くの皆様方に重ねてお詫び申し上げます。

2020 年 12 月
『北の学芸員とっておきの《お宝ばなし》』編集委員会
編集委員 斎藤 和範、澤田 健、栗原 憲一

北のミュージアム紀行１１「特集　新型コロナウィルスと博物館」

全国の博物館・文書館それに図書館において、昨今の新型コロナウイルス感染症に関する社会の動きについて記録化の取り組みが進められています。すでに大阪の吹田市立博物館など、いくつかの博物館では、収集した資料に関する企画展も開催されました。

浦幌町立博物館でも、2020 年 2 月頃より、「コロナ関係資料」の名で資料収集を進めています。多くは、チラシやポスターなど、短期間で役目を終えて廃棄される「エフェメラ」と呼ばれる一過性の紙媒体資料です。当初は、感染拡大防止のために中止された講演会やイベントのチラシなどが主でした。やがて飲食店のテイクアウト化、公共交通の減便、神社の祭礼や盆参りの自粛［写真 1］、「おうち時間」と家庭学習［写真 2］、Go To トラベルや生活困窮家庭への支援［写真 3］など、社会生活のあらゆる場面に「新型コロナ」の影響が出始めました。いまは、なるべく広い分野の資料を集めるようにしています。

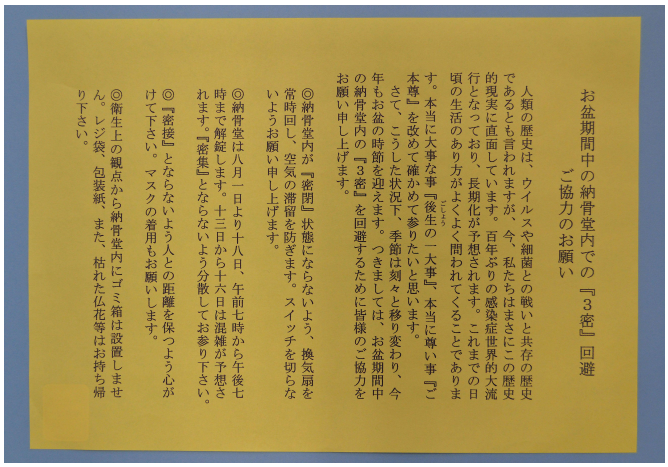


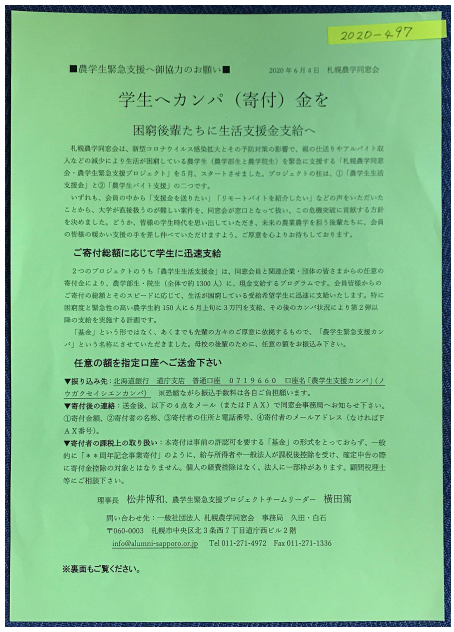
写真１　納骨堂での「三密」回避の呼びかけ

写真２　「おうち時間」の表記のある広告

今回の感染症は、世界中で起こっています。東京や札幌のような大都会だけでなく、浦幌のような過疎の町にも、感染症は入り込んでくる恐れがあります。そのため、感染症への対策も世界同時に進められています。それぞれの地域で、今回の感染症の問題がどのような形で表面化していたのか？地域博物館としては、地域の日常生活がコロナでどのように変化したのか？をモノで記録し、伝えていく役割があると考えています。

各地で資料収集が進むと、地域ごとに特徴的な社会変化を記録したり、地域間差を比較したりすることができるでしょう。

「エフェメラ」は、紙資料が中心ですので、大した邪魔にはなりません。ぜひ今からでも、各地域で収集に取り組んで頂ければと考えていますし、館で収集できなくても、個人で収集し後日収集館へ寄贈することができます。ぜひ、多くの博物館園や学芸員が、共に記録化に取り組んで頂ければと思っています。


2020-497

■農学生緊急支援へ御協力のお願い■　　2020年6月4日　札幌農学同窓会

学生へカンパ（寄付）金を

困窮後輩たちに生活支援金支給へ

札幌農学同窓会は、新型コロナウイルス感染拡大とその予防対策の影響で、親の仕送りやアルバイト収入などの減少により生活が困難している農学生（農学部生と農学院生）を緊急に支援する「札幌農学同窓会・農学生緊急支援プロジェクト」を５月、スタートさせました。プロジェクトの柱は、①「農学生生活支援金」②「農学生バイト支援」の二つです。

いずれも、会員の中から「支援金を送りたい」「リモートバイトを紹介したい」などの声をいただいたことから、大学が直接数うりの難しい案件を、同窓会が窓口となって扱い、この危機突破に貢献する方針を決めました。どうか、皆様の学生時代を思い出していただき、未来の農業農学を担う後輩たちに、会員の皆様の暖かい支援の手を差し伸べていただけますよう、ご厚意をぐんとお待ちしております。

ご寄付総額に応じて学生に迅速支給

２つのプロジェクトのうち「農学生生活支援金」は、同窓会員と関連企業・団体の皆さまからの任意の寄付金により、農学部生・院生（合体で約1300人）に、現金支給するプログラムです。会員皆様からのご寄付の総額とそのスピードに応じて、生活が困難しているそれぞれ皆様学生に迅速に支給いたします。特に困窮度と緊急性の高い農学生約150人に６月上旬に３万円を支給、その後のカンパ状況により第２弾以降の支給を実施する計画です。

「基金」という形ではなく、あくまでも先輩の方々のご厚意に依拠するもので、「農学生緊急支援カンパ」という名称にさせていただきました。母校の後輩のために、任意の額をお振込み下さい。

任意の額を指定口座へご送金下さい

▼振り込み先：北海道銀行　道庁支店　普通口座　０７１９６６０　口座名「農学生支援カンパ」（ノウガクセイシエンカンパ）　同窓誌から振込用紙が数枚は各自ご利用願います。

▼寄付後の連絡：送金後、以下の４点をメール（またはＦＡＸ）で同窓会事務局へお知らせ下さい。①寄付金額、②寄付者の名称、③寄付者の住所と電話番号、④寄付者のメールアドレス（なければＦＡＸ番号）。

▼寄付者の課税上の取り扱い：本寄付は事前の許認可を要する「基金」の形式をとっておらず、一般的に「＊＊周年記念事業寄付」のように、給与所得者や一般法人の課税後控除を受け、確定申告の際に寄付金控除の対象とはなりません。個人の経費控除はなく、法人に一部枠があります。顧問税理士等にご相談下さい。

理事長　松井博和、農学生緊急支援プロジェクトチームリーダー　横田篤

問い合わせ先：一般社団法人 札幌農学同窓会　事務局　久田・白石
〒060-0003　札幌市中央区北３条西７丁目道庁西ビル２階
info@alumni-sapporo.or.jp　Tel 011-271-4972　Fax 011-271-1336

※裏面もご覧ください。

写真３ 大学生へのカンパの呼びかけ

当館では、北海道が独自の緊急事態宣言を発令した 2020 年 2 月から 1 年後の 2021 年 2 月末か

ら、これまで収集したコロナ関係資料を一挙公開する企画展を予定しています。もし同時開催できるような共催館があれば、協力したいと思っています。関心のある方はご連絡ください。

（浦幌町立博物館　持田誠）

編集後記

本年度は今年も残りわずかとなりましたが、皆様お元気でしょうか。本年度最初の学芸部会ニュースを発行いたします。本来であれば、例年、研修会開催前に部会ニュースを発行しておりましたが、諸般の事情で発行が遅れてしまい大変申し訳ありません。

今年度の研修は本当ならば道南の今金町で、お互いに資料を確認して議論し合い、今金町の鉱山跡を眺め、夜は酒を酌み交わして情報交流を行う、という処だったのですが、新型コロナウィルス感染拡大予防対策を受け、Zoom を用いたオンライン開催となりました。オンラインによる研修会開催は初めての試みでしたが、道南ブロック博物館施設等連絡協議会および今金町教育委員会の皆様、研修担当者の尽力により、無事に研修会を実施できました。参加者は昨年の半数となりましたが、逆に遠方からの研修会参加も可能となり、オンライン研修の利点も見えたところです。今回の「北のミュージアム紀行」では、浦幌町立博物館の「コロナ関連資料の収集」の取組を紹介いたしました。新型コロナウィルスによる外出自粛・学校の休校や保育園・幼稚園への支援として「おうちミュージアム」などの取り組みが道内の様々な館園で実施されていましたが、同時に「『今』を資料収集により記録する」ことも博物館の役割の重要な取組の一つとなりうるでしょう。古今、閉塞感の漂う報道が流れますが、博物館の持つ「資料を次の世代に引き継ぐ」という役割、例えば、古い道具、古文書、基本的な生物・地質情報や埋蔵文化財など、一見『普遍的な情報』が、行き詰まった人の生活や地域政策の転換に役立つ場面が今後増えてくるでしょう。

自身が現職を離れ在野研究者となった平成 30 年、その秋に胆振東部地震が発生し、被災や道内広域の停電への対応、現在の新型コロナウィルス感染症対策に至るまで、現場は毎年未曾有の事態に見舞われ続けています。困難に負けず専門的な見地とネットワークを駆使して現場の学芸員たちが奮闘し続けている様子を今後も見守り支えていきたいと感じています。（小玉愛子・記）

北海道博物館協会
学芸職員部会ニュース№94

発行日　2020(令和２)年 12 月 21 日
編　集　小玉愛子（みちくさ研究所 in 苫小牧）
　　伊藤大介（ニセコ町・有島記念館）
発行者　北海道博物館協会学芸職員部会
　　〒049-3106　北海道二海郡八雲町末広町 154 番地
　　八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館内
　　TEL 0137-63-3131　FAX 0137-64-3848
　　URL http://www.hk-curators.jp/

北海道博物館協会　学芸職員部会ホームページ　学芸職員部会入会申込案内